

「小児慢性特定疾病情報センター」ポータルウェブサイトの利用状況と 情報発信のあり方に関する検討

研究分担者：盛一 享徳（国立成育医療研究センター 小児慢性特定疾病情報室 室長）

研究協力者：白井 夕映（国立成育医療研究センター 小児慢性特定疾病情報室）

研究要旨

「小児慢性特定疾病情報センター」ポータルウェブサイト（<https://www.shouman.jp>）は、厚生労働省小児慢性特定疾病情報管理事業により、2015（平成27）年1月から本格運用が開始され、小児慢性特定疾病児童等の治療・療養生活の改善に資する情報の一元化を図り、疾患概要や診断の手引きのほか、各種相談窓口・支援団体等に関し、掲載情報を随時更新・拡充するとともに、問い合わせフォームを通じ関係各所からの問い合わせ対応を行っている。

今年度は、2021（令和3）年11月より対象疾患が増加したことから、新規追加疾病に関する概要や診断の手引き、医療意見書の作成等を行った。2021年（令和3年）度のポータルウェブサイトへのアクセス数は、年間約450万件、1日当たり平均1万2千件であり、アクセス端末種別は、例年同様スマートデバイスからのアクセス数が7割あり、患者やその家族、医療従事者、行政関係者など、国民全般から幅広く閲覧されていることが推察された。

今後も引き続き、情報をより充実させ、多くの国民に向けて、最新かつ正確な情報発信を行いたい。

A. 研究目的

小児慢性特定疾病情報管理事業にて運営している「小児慢性特定疾病情報センター」ポータルサイトの利用状況を分析することを目的とした。

B. 研究方法

「小児慢性特定疾病情報センター」ポータルウェブサイト（<https://www.shouman.jp>）について Google LLC が提供しているアクセス解析サービス Google Analytics を用いて解析を

行った。データ期間は、2021（令和3）年4月1日から2022（令和4）年3月31日までの1年間とした。さらに2021年4月1日から2022年3月31日までの1年間に、本ウェブサイトへの問い合わせフォームに寄せられた問い合わせについて検討した。

（倫理面の配慮）

本研究は個人を特定しないデータを用いて実施しており、特別な倫理的配慮は必要ないものと判断した。

C. 研究結果

1) 時間軸からみたアクセス数

2021年4月1日から2022年3月31日の1年間における総アクセス数（セッション数）は4,512,111件であり、総ページビュー数は7,596,692件であった。月別のアクセス数は、上期に増加傾向がみられ6月が最も多く、次いで7月、9月であった（図1）。一日当たりの平均アクセス数は12,362件で昨年度と比較して1.04倍であった。また平日の平均アクセス数は14,038件、土日祝日の平均アクセス数8,897件であった。平日の曜日別では、表1のように、金曜日がやや平均アクセス数が少ない傾向が見られたが曜日ごとの平均アクセス数に統計学的に明らかな有意差は認めなかった（一元配置分散分析では、 $F=2.36$ 、 $p=0.05$ ）。平日と比べ、土日祝日にアクセス数が減少する傾向は例年通りであった。時間帯別アクセス数は、全体でみると日中15時と夜21時をピークとする二峰性の分布を示していた。日中はデスクトップ端末からのアクセスが約4割を占めるが、夜間のアクセスの8割はスマートデバイス端末からのアクセスであった（図2）。

2) 地域別アクセス数

全ての都道府県からアクセスが認められ、アクセス数の多い順に東京都、大阪府、神奈川県と昨年度と同様であった。一般的に情報通信技術の領域におけるアクセス数の分布は、べき乗則になることが知られている。地域別のアクセス数を20歳未満人口で並べた場合、図3に示す様に、指数関数的に増加していた。その中で、大阪府は予想されるアクセス数より大幅に多い一方、東京都は人口からみたアクセス数が非常に少なかった。

海外からのアクセスについては、2021年度の1年間で、米国が14,604件で最も多く、次いでシンガポール2,607件、中国1,591件、英国1,461件、台湾1,382件、オーストラリア1,362件、カナダ1,295件、ドイツ1,189件、タイ1,066件の順であった。ブラウザの利用言語は

日本語が48%、英語が43%であった。

3) 端末（デバイス）種別アクセス数

2021年度のデバイス種別アクセス数は、モバイル端末が67.0%、PC端末が30.5%、タブレット端末が2.5%であり、モバイル端末とタブレット端末を合わせたスマートデバイスによるアクセス数が昨年同様、全体のおよそ7割であった。すべての時間帯でモバイル端末からのアクセスが上回り圧倒的に多いことは昨年同様であった。

4) ページ閲覧の特徴

全アクセス数のうち、トップページ経由でのアクセス数は全体の約3.5%であった。トップページから次に遷移しているページとしては、多い順に「対象疾病」21.2%、「疾患群一覧」9.4%、「患者・家族向け」5.4%、「医療助成」4.9%、「医療従事者向け」4.0%、「概要」3.7%、であり、昨年と同様であった。トップページを経由せず、サイト内ページへの直接アクセスは、全アクセス中96.5%であるが、多くは検索エンジンからジャンプしてきており、google searchとyahoo searchからのアクセスは88.3%だった。また、直接サイト内ページへアクセスのうち、対象疾病のページへのアクセスは68.7%を占めていた。突発的にアクセスが集中していた日は、2021年9月8日にあり、通常の日平均の約2倍となっており、新規ユーザが大半を占めていた。

5) ウェブ問い合わせ件数

2021年度の1年間における問い合わせ件数は361件で昨年度の1.1倍だった。問い合わせ者の種別では、一般（患者・家族・患者団体）が最も多く170件（47.1%）、行政機関90件（24.9%）、医療従事者85件（23.6%）、その他（企業・福祉従事者等）16件（4.4%）であった。月別問い合わせ数では、今年度は4月から11月にかけて増加傾向にあり、特に9月が最も多かった。曜日別では、すべての属性において平日が多かった。平日の問合せ数は全体の88.6%

であり、そのうち 46.0%が行政と医療従事者であった。時間別問い合わせ数では、9時から12時と14時から18時までが多く、最も多い時間帯は16時台であった。日中時間帯である9時から18時までの間に245件あり、全時間帯の問い合わせ数7割近く(67.9%)を占めるが、そのうち6割139件(56.7%)が行政機関と医療従事者からであった。また夜間の20時から24時までの問い合わせは44件で全体の12.2%であるが、そのうち6割(25件56.8%)が一般(患者・家族・患者団体)からであった。

D. 考察

時間軸からみたアクセス数

本年度のアクセス数は約450万件と昨年よりやや増加していた。月別でのアクセス数に大きな違いは認められなかった。時間帯別アクセス数は、例年同様に日中の業務時間帯が最も多く、デスクトップ端末からのアクセスが全体の4割まで増加しており、夕方以降急激に減少することから、業務目的での閲覧が中心であると推察された。一方、夜間のアクセスピークである21時前後の時間帯は、モバイル端末からのアクセスが全体の8割を超えており、この時間帯の主たる閲覧者は一般国民である可能性が高いと考えられた。これらの傾向は例年と同様であった。

地域別アクセス数

地域別のアクセス数について、全ての都道府県からのアクセスが認められ、大都市を抱える都道府県でアクセス数が増える傾向は例年同様であった。大都市である東京都と大阪府とで20歳未満人口あたりのアクセス数の傾向に大きな差異があるのは、自治体単独事業である乳幼児・子ども医療費助成制度の実施状況に大きな差異があり、東京都では中学生までは医療費が無料となるため、小児慢性特定疾病に対する関心が薄いことが原因である可能性が示唆された。海外からのアクセスについては、例年と大きな差異はなく、ブラウザの言語設定が、日本語もしくは英語であることから、海外在住

の日本人による閲覧が中心である可能性が高いと思われた。

端末(デバイス)別アクセス数

スマートデバイスからのアクセスが全体の7割であり、またすべての時間帯において最も多く利用されるデバイスであった。これらは患者・家族を含む一般国民からのアクセスが主体と推察された。一方、勤務時間帯に利用が増えるデスクトップ端末からのアクセスは業務目的の者を多く含むと考えられた。それぞれの端末からのアクセス数・割合、利用時間帯の傾向は例年同様であった。

ページ閲覧の特徴

トップページを通らずに直接サイト内ページへ閲覧するケースが例年同様9割を超えていた。多くは、業務、個人に関わらず、検索サイトを通じて直接疾患ページに飛ぶか、必要なページにブックマークをしてアクセスしていると思われた。また特定の疾患、日時でアクセス数が瞬間的に多いケースは、ネットニュース等で話題となった病名等特定のキーワードを検索エンジンからアクセスしていると思われ、本年度に生じた突発的なケースも有名人の神経疾患に関連した報道に影響されたものと推察された。

問い合わせ件数との関連

今年度はウェブサイト経由の問い合わせ総件数は、昨年とほぼ同様であった。患者・家族等の一般国民からの問合せは、年々増加しており、一般国民に対する窓口として働いていると考えられた。問い合わせ内容については、多岐にわたっており、とくに内容に偏りは認められなかった。

E. 結論

本ウェブサイトは、医療従事者、行政事務従事者、患者やその家族など、国民全般から幅広く閲覧されていることが推察され、小児慢性特

定疾病に関する情報発信手段として有効に活用されていると思われた。いずれの端末からもアクセス数は横ばいであり、本ウェブサイトで発信する情報はそれらを必要としている国民に概ね行きわたったと考えられる。

今後も更なる視認性の向上や分かり易い情報提供を心掛け、引き続きより多くの国民に向けて、最新かつ正確な情報発信を行いたい。

F. 研究発表

論文発表/学会発表
なし/なし

G. 的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)

特許取得/実用新案登録/その他
なし/なし/なし

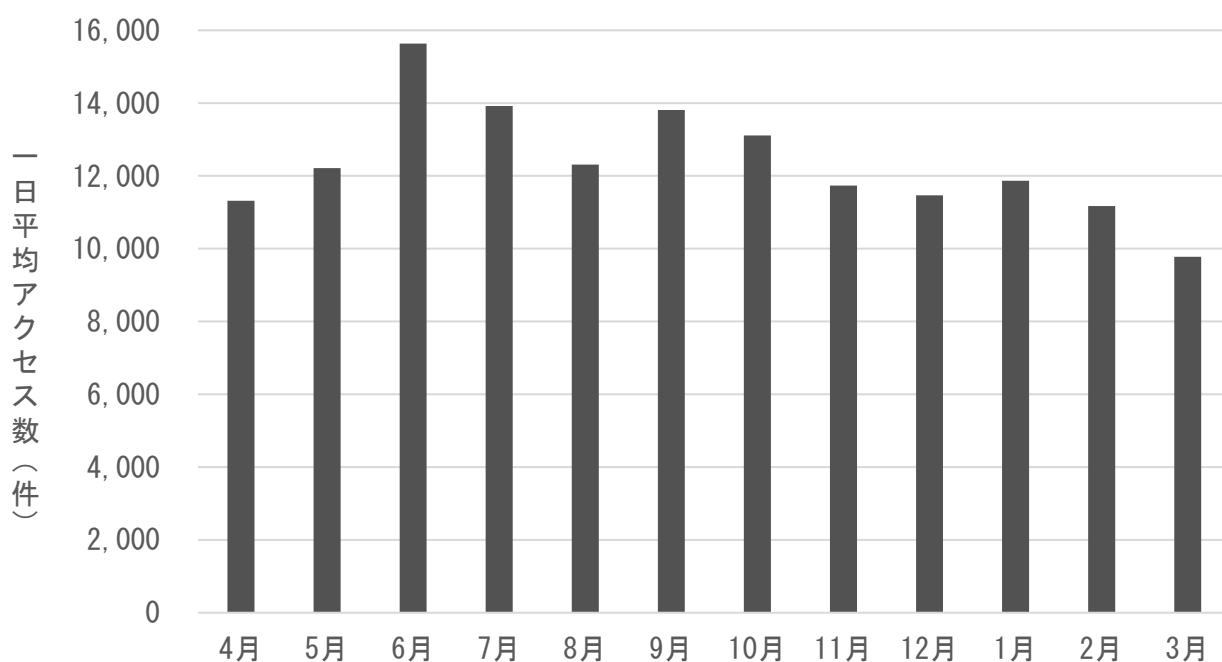


図1. 2021（令和3）年度 月別一日平均アクセス数

表1. 2021（令和3）年度 曜日ごとの平均アクセス数

曜日	平均アクセス件数（件）	標準偏差（件）	頻度（日）
平日	14,038		246
月	14,110	2,354	47
火	14,331	1,980	50
水	14,489	2,559	49
木	14,040	2,177	50
金	13,233	2,034	50
土日祝日	8,897		119

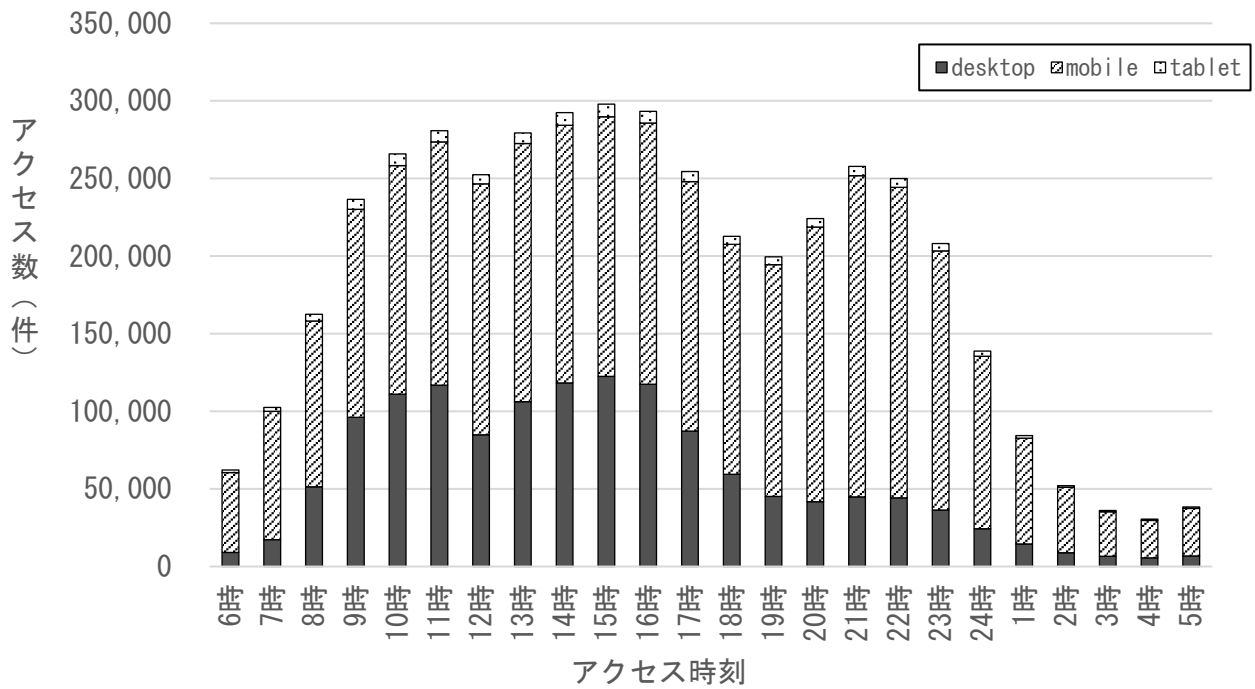


図2. 2021（令和3）年度 時間帯ごとのアクセス数（端末種別）

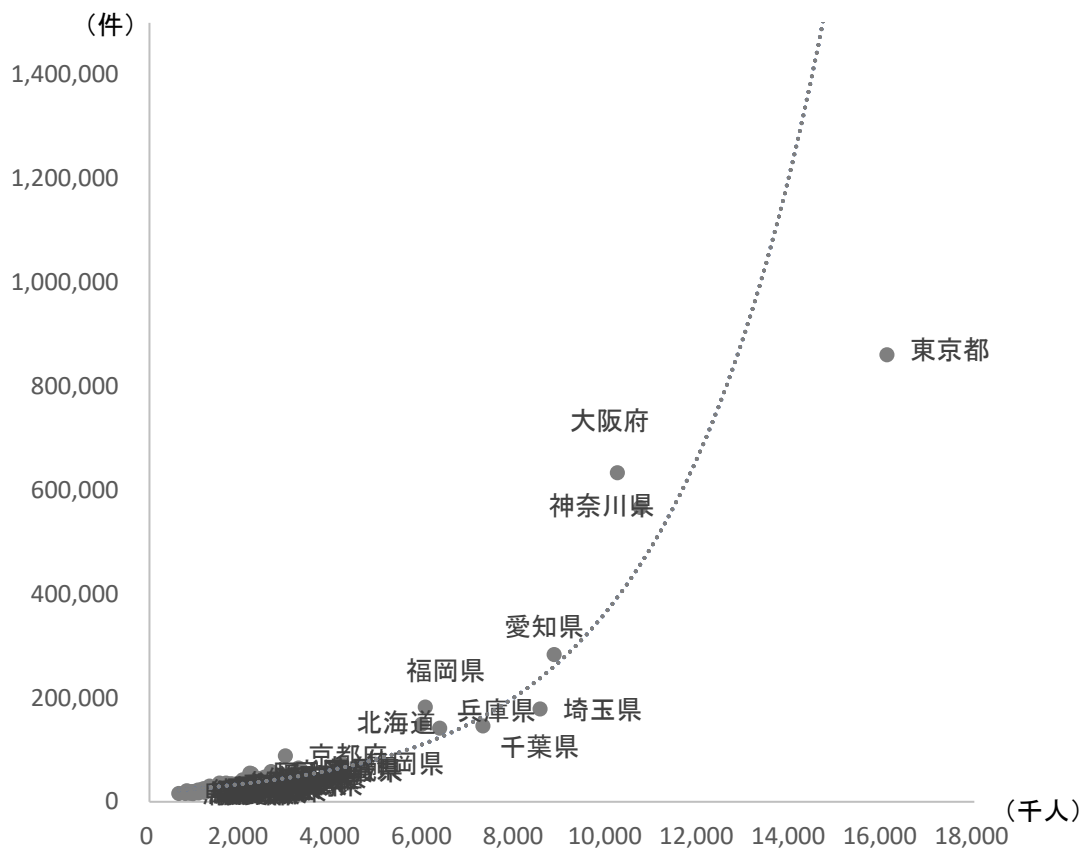


図3. 都道府県別の20歳未満人口とアクセス数